

争も現出するに至つた。

評議會の脱退は、之も發生的に見るならば、明かに大正十三年度大會宣言に対する京葉派と修正派との  
分裂である。大正十二年無産階級運動の方向轉換が宣言され、以後三年間「現実派」(大衆派)  
派)なる掃蕩の下に於ての政策が遂行された。然るに此の方向轉換過程は、その内部に於て、支  
配階級の欺瞞的政策に迎合し無産階級の利害を衷切らんとする日和見主義的分派も發生  
せしめた。此の分派は又総同盟中心主義に陥り、全日本の労働組合統一に對して消極的になりつ  
ち、然し乍らかゝる日和見的分派に反抗して起ち自ら別個の組織を構へ、所謂「左翼」は  
空談たる革命派に立脚し、而し觀念的分派運動の結果、常に利己的運動に墮するに至つた。  
大正十四年十月以来、評議會もよりて企てられたる。地方及び全國組合會議の結成運動は、十五  
年秋に至り全國組合會議に於て完全に失敗した。突如の會議は全國に散在せる分立的労働組  
合の現状を無視し、然かし之を自己の勢力の下に置かんとする左翼と、この左翼との対立抗争のうちに自  
ら極右翼化せる総同盟右翼幹部との醜態ある抗争舞臺と化したのであつた。全國的統一と産業界  
別整理のためには自らの解体を辞せずと言明せる左翼は、その後の試練によつて労働組合運動を  
分別衣に道なき運動の全体的統一を阻止する者たることを暴露されたのである。かゝる極右翼との対立  
闘争は、無産政党組織運動の發展と共に、いよいよ激烈化し、複雑化し、未了な。我國の資本主義

は大正九年以来の不景氣を通じて益々集中的に發展し、無産階級運動に對する<sup>(各階級別)</sup>無産階級の  
闘争形式はかくて一大變化を要求するに至つた。資本主義の全般的攻勢に對する闘争は政治闘争に  
よりてのみ可能であることが容認された。かくて無産政党の組織運動は、大衆的要求の中心に劃策さ  
るゝこととなりつた。

然し既に分散された組合運動の状態の故に、他方又支配階級の意識的分裂政策の故に、單一  
無産政党は遂に實現され得なかつた。政治的意見の相違は、激烈なる内部闘争を喚起し、分散的  
に對立せる組合関係は、此の内部的闘争の主体となりて對立した。農民労働党結成以來の大混乱は  
數個の政党を發生せしめ、在末、分散的組合運動の各々の形態と密着するに至つた。今日の組合  
運動の状態は、政治運動を中心とする、分散状態に轉化し、分散的形態は更に又強度に意識  
づけられてゐる。かくの如き現状を以てしては、全國組合運動の全体的統一は單なる主觀的要求以外、何  
等の可能性も持たない。

小児病的左翼と、日和見主義的極右翼との対立抗争によりて導かれたる無産階級運動の極度の混  
乱を以て我が組合同盟は生れた。我等は生るべき必然性をもつて生れた。総同盟の内部に存して戦へる  
隱忍の時日は、我々自身の發展過程であつた。総同盟並に其他の諸團體が、資本主義の諸條件  
に照應して、無意識的に、組合運動の統一の過程をたどりつ、あることを我々は信じた。我々は